

ある日の新聞に「来春新入学向けランドセル商戦 好きな色を選んで、伸び伸びと」という見出しとともに親子でランドセルを選んでいる写真が載った記事が出てきました。その記事には「来春、小学校に上がる息子を連れて、ランドセルを見に行ったら『この色がいい』と息子が選んだのは、深みのある色合いの『赤』だった。男の子なんだから、当然、黒か紺だろうと思っていたので驚きました」とありました。この時、私が父親だったら「赤は変だよ」と言っていたかもしれない。しかし、この父親は、最近では色の種類も増えているし、男の子が赤でも不自然はないかなと納得していました。同伴していた祖父も父親同様に納得し、赤いランドセルを購入したそうです。

私たちは、風習や迷信から無意識に偏見を持つことがあります。私の子どもの頃は、ランドセルの色と言えば赤と黒の2色でした。そのため私も、この父親も「男の子は黒、女の子は赤」と思い込んでいました。もし、この父親が息子に「昔から赤いランドセルは女の子が持つよ」と押しつけてしまっていたら、子どもの意識の中に「赤色は女の子」というイメージが刷り込まれていたことでしょう。子どもたちは、成長の過程で親などの身近な人から、あるいはテレビなど見るものを通して、さまざまな価値観を身につけていきます。私たちは、無意識のうちに子や孫に偏った価値観を伝えているかもしれないのです。子どもたちに偏った価値観を伝えるために私たち大人ができることは「昔から」「みんなが」という理

由で、流されてしまう習慣から抜け出すことです。そのためには、この父親のように自分で考えて判断できるように心がける必要があるのではないのでしょうか。

